

Caixa, 375 S. Paulo
Telephone 2-3926

伯國サンパウロ市
リベルダーデ街一四六
發行所 日伯社
本紙定價一年金三〇圓
外國郵稅共金六〇圓
廣告料
西字詰行八百レース
一面、三面言レース増

農業移民がほしいとのブラジルの要求によつて我國はこれまで農民を送つて居た、移民屋の宣傳も官選の獎勵もブラジルと云へば農業、農業の外何もないかの如くにふれ廻つて居た、なほのほどこであるのブラジルは農業國であり、原料品生産國では農業に特化して居るものではない、ブラジルのを以て農業の外何もないとする見解はどだい間違つてゐる。その正解は、どだい間違つてゐる。

自國の立場を擁護する モスコ—政府の釋明

讓歩は日本以上した
自國の立場を擁護する
モスコ政府の釋明

【モスコ十四日發】客年六月二十六日帝國政府韓族の下に開始された滿蘇兩國政府の北滿鐵道渡交渉は去月十四日滿洲國代表の東京引上げによつて再び中絶の形となつたが、右は一に蘇聯側の不誠意の致すところとせる十一日發表せる我が外務省の聲明に對し、蘇聯側はその後何等これに對しなかつたところ本日始めて反駁の聲明を試みないたつ

日佛提携成る乎

フランスマ
廢棄を企圖
日佛提携成る乎
「東京十三日」 賜暇歸朝中の駐佛大使佐藤尚武氏は歸朝以來岡田首相を始め廣田外相大角海相と屢々會見し、歐洲における最近の情勢なかんづく軍縮問題を中心とするフランスの態度について詳述し、明年度開かるべき軍縮會議に對する資料を提供したが之によれば佛國の對日態度は日本の聯盟脫退當時に比し著しく好轉すると共に、ワシントン條約に對する不滿は全然日本と同感で、今年中に該條約に對する廢棄通告をなすことは一點疑ひの余地なく、從つて該條約廢棄通告問題を中心に今後日佛間の外交交渉は微妙の動きを見せるものと推せらるゝとされ、この點でに通告時機についてのみ問題として殘されてゐる、日本とその所見を同じくし、從つてこの問題に關する限り日佛兩國は今後共同戰線を張るの機運を醸成すべくフランスの動向は極めて重視されてゐる

廟議で確立さる

我が軍縮根本方針
廟議で確立さる
全海軍の結束固し

【東京七日】 既報帝國の軍縮對^ニにつき廣田外相より詳細な説明^ヲ策を決定する^ニため閣議は七日午^ニあり、次いで大角海相からも補^ハ前より首相官邸で開會、軍縮^ニ實^ニ行的の説明があつて各閣僚異議^ヲ備會商に對する帝國政府の方針^ヲなく承認^シこゝに帝國政府の軍

英提督の主張

倫敦條約廢棄
英提督の主張

「ロンドン發」ボーツマスにおける海軍週間の開會式に臨みビテイ提督は一場の演説を行ひ英帝國の安寧福輻が主として海上權の獲得によることイギリス海軍の重要性を力説したが右演説中でビ提督は現在英海軍力は商船に比し倍半に劣ることを慨嘆し、

賀陽宮兩殿下
十八日御歸朝

「東京十八日發」去三月初旬靖國丸で御外遊の途に就かれた賀陽宮同妃兩殿下におかれられては商船に比し倍半に劣ることを慨嘆し、

大使に發した訓電の内容客は大體すでに屢々傳へられたところを

より松平駐英

十八日御歸

賀陽宮兩殿下
十八日御歸朝

○郷里送金
取扱開始致候、但し新令に依り日々
爲替買取高以内に限られ候に付御申込
順に従ひ成行相場にて取計可申自然爲
替不足の節は暫らく御猶豫を御願す
候ことも可有之候
送金は一切無手数料にて取扱可申候

○日本貨預金
當行内地各店の定期預金として送金方
前項に準じ取扱可申候
御所持の當行圓貨預金證書、小口當座
預金等は今後當分公定相場に關係なく
上候
期日成行最好相場にて伯貨御支拂可申

○伯貨預金
小口當座 年貳分
定期預金 六ヶ月以上一ヶ年迄利率當
分年三分五厘の割

○當行内地
本支店 定期予金、利息
現在六ヶ月年三分七厘の割
一九三四年五月

横濱正金銀行

Phones: 6278 e 6306 End. Telegr. "TOZAN"

CASA TOZAN
MIZUKAMI & CIA.
COMMISSARIOS
Praça Maua, 25 - Caixa, 911 - Santos

印刷機

紙袋等の御注文は
學用品一切の御仕
入は是非!!
日伯社營業部へ
【御注文は直接又は
本社出張員に

法律

面會 午前九時より四時
法律相談 無料但返信切
手封入 元元年創設

法律事務所

法學士(帝大) 牧 義朝
辯護士 帝大七五六一
自宅電話 七五六一

呼寄

呼寄 各線とも
二週間に以内に完成

Rua José Bonifácio, 110 - Tel. 2-7232
Caixa, 1757 S. Paulo

The advertisement is split into two main sections. The left section features a large, stylized eye logo within a diamond shape, with the text "CORES FIXAS" and "INDUSTRIA BRASILEIRA" around it. Below the logo, the words "CASAS" and "PERNAMBU" are written in large, bold, white letters. The right section contains Japanese text in a vertical column: "決して色褪せぬ" (Never fades) and "丈夫な布地" (Durable fabric). Below the Japanese text, the word "BUCANAS" is written in large, bold, black letters. In the bottom right corner, there is a small logo for "C.W.R."

ハット
の強壯劑だ」
の外次の如き
グリセリン及
神經衰弱等々
父納二儀病氣の處醫藥効
無く去る十四日死去サ
バウノ墓地に埋葬仕候間
此段生前辱知諸賢に謹告
仕候
追而葬儀の際は御多忙
中御會葬下され且つ御
香爇迄賜り難有厚く御
禮申上候旨一々参上
御禮申すはきき者々

去年期紗總輸出會加最近六十社、棉、ハルシヤ棉、南米產棉の消費量年々増加傾向に在るは注目し値す、八月申綿糸生産高二十九萬九千一捆の新記録を示す爲替は米國の銀國有令公布と磅切調を眺め市中相場好調を示せるも正金建値は對英一志一百三十六分の一握置、對米月末二十九弗八分三厘の三を唱ふ。

大藏省發表に依れば昭和八年國債貸借概算額は貿易外收支に於て受取勘定九億八千四百萬、受取超過額千八百萬に對し貿易入超額七百萬元なる差引五十九百九十万の支拂超過となり實績良好なるを示し居れり、八月七日銀引賣物價指數一七六・九、前月に比へ一分六厘方昇騰

洲諸國に分割領有せられたまふ
 何處からも移民に及ばしうとせ
 る、土着人は開發に努めずたゞ
 海岸地帯に僅かに歐洲人が住居
 してゐる斗りである、アメリカ
 大陸と雖もブラジルを除く外は
 外來移民受入れの條件を具へて
 ゐる國はなく、ブラジルに於て
 もサンパウロ以南の數州が何れ
 の移民をも受入れ得ない、九三
 具備してをるにすぎない、九三
 四年の憲法はどうやらブラジル
 の將來に對して危機を豫告し大植
 民地たる聖地に殊に意義あるよ
 うに思はれる

斯様に領土保護國の擴大に力め
 た日本もまだその遂増する人口
 を緩和し得るに至らない、かゝ
 るが故にブラジルとしてはこゝ
 際日本に對しては確たる態度を
 定めなければならぬ、備へること
 として移民制限條項を閉却してゐ
 た前並に近き將來に日本移民充
 満しなれば多數の事件と同様
 な事態を現出することになつた
 であらうも測られない

ブラジルにおける日本人は、
 今日まで最もよき友人であり
 得難い農業者であるが、その
 在つた、ストウタは山嶺し市價

九三〇年革命政府が政權を握つ
 た當時の珈琲界は九二九年不況
 の後をうけて頗る慘めな状態に
 在つた、ストウタは山嶺し市價

○年革命政府が政權を握つ時の珈琲界は九二九年不況をうけて頗る惨めな状態にた、ストツクは山積し市價

珈琲は一千四百九十二
五十七俵、八月中の廢
百十四万六千四百七十
差引八月三十一日現在

聖市郵便局

收入は全國一

全國郵便局中收支バランス
 好きなのは聖市、リベロンブ
 ト、ボツカツ、リオグラン
 スール、サンタマリア・ダ・
 カドマツト等數局だがその
 聖市郵便局の如きはそれ

ミルで前年同期の一千百
八コント三百六十三ミル

リースに比し五百十八コ
二百三一ミル四百増、五
は前年同期一千百五十
コに對し一千四百五十
ト八百二十六ミル五百
レで五、六月中に前年度に
八百十七コト二百十二
コ、しかも支出の方は業
改善によつて新減して

二百萬俵は超えない模

三四〇五年度も矢張りものではないかとも謂る、但し値段はこの一上値を維持し従つて製

第一回

案內御申 第一回

皇 國

御・申・越・次・第
案・内・書・進・呈
主催
後援
大阪商船株式會社
海外興業株式會社
CaiKa, 375 - S. Paulo
日伯新聞社

中央線モチ・ダス・クルゼス

垂函十七番

青年入用

齡廿才前後、身體健康なるを、毎日五時閉店に付勉強の味あり、希望者は左記へ

小川肥科店

少年、希望の方は保護者同様に御来店を乞ふ

菓子製造販賣 清寺商店
食料洋酒雜貨
市コンセイロフルタド

け使金

今回海軍
北白
奉呈遊
め申し

情

ブラジル
＝(今回献納品の)



Caixa, 375 - S. I

大陽商船株式會社

山ノトス發ル目

[illegible]

LARGO DO OUVIDOR, 2
WILSON SONS & CO LTD.
AV. RIO BRANCO, 37

歸國手續の世話乗船切符購入等
御取扱致します
駐在員 - MIYA 388 - YANTO
Telephone, 2

乙ふ御援助あらん事を。

へブラジル情况寫眞帳

政より再び何よりの品じやとの御

上御下命願ひます。
て巡廻致します、希望の方は至
皇者多敷に上ります
パウリスタ延長線マリリヤ市
ボンフィン街一
中山清
發行者



100

りおでさやね

海外二十三の大學から
我學者招聘の交渉

文化外交は政治經濟外交の前衛、文化講座開設のための教授招聘等だといふ建前だが、外務省が對文化宣揚の統制機關を……といふ所からこの春國際文化振興會の創設に協力、文化國策は一段と力こぶを入れて來たが、英米兩國を始め世界の學者招聘の申出のうち費用一切を大學生が持つものと日本と半々で支辨するものとがある大學名は左の通りである

△アメリカ（ハーバード大學）

△日本文化講座新設學者招聘希望のもの

△英米兩國を始め世界の學者招聘の申出のうち費用一切を大學生が持つものと日本と半々で支辨するものとがある大學名は左の通りである

鬼の魔窟は寶の山
丹波大江山一帯に
大ニツケル鑛發見

むかし丹波の大江山、鬼ども
多く住ひして……その丹波大
江山「鬼の窟」を主盟として
山ご 積んだ鑛石を持ち
んできた、同局技

て文化事業に専念してゐる
所で海外諸國の文化事業の最近
の傾向はおしなべて眞の同情と
理解に基く東洋、ことに「日本」
の研究でドイツが先般ベルリン
大學教授ハンス・ムザ氏を日本
に派遣して同大學に日本
を設けたのを、極く
めとした、極く
開資局で、も全國礦山監督局を
國防上の大打撃であるとして内
閣府、但馬、若狹八郡に亘り
幾億とも知れぬ無限の財源が
發見された……夢ぢやない正
銘の現實、大阪礦山監督局の
折紙つきで……
今全盛の軍需品工業の主要座を
占めるニツケルが一朝非常時に
も輸入杜絶のハメに陥つたら
ゝがこれを見ると最良質の紅磁
ツケルで見事に表皮まで露出
水洗ひでも容易に溶解し得る
いふ優秀品、早速分析にかけ
みると各鑛とも平均含有量一
セント以上の驚異的成績を
出したので
引つて捜査隊に命じ鬼の
一帶から京都府與謝郡西南

就職戰線好轉

我が國失業者減少

て居る點注目すべきものがある、即ち本年五月一日現在の調査に依れば給料生活者七百七十二万六千五百五十四人、労働者五百七十三万五千八百八十七人合計七百四十六万二千四百一十人の内失業者数は給料生活者六万九千九百九十三人、労働者三十一万三千七百八十四人、合計三十八万二千九百七十七人で昨年五月一日現在に比し給料生活において四百二十一人、労働者四万五千八百九十七人、合計四万六千三百三十八人の失業者を減少して居り、給料生活者に比して労働失業者の減少の大なる點が特に注目される、次に全國的に失業者數を見る時は東京府の六万六千六百六十六が最高

ン、ババアン……
アメリカの空に
威勢よい日本花火

夜空にパン、パパン……

舞踏會の夜を道化の「藝」それ出された。原告の某帆布會社から「木板畫」「陶磁器」「釣針」帆布販賣係主任櫻田半助(三三)は……などいづれも日本獨特のお雲月圓タクで歸宅する途中トラ家藝を誇る珍らしい商品が七むツクと正面衝突した怪我をしたつかしい海彼方のアメリカへ明まだ忍ぶで娘二ヶ月の妻の、海の彼方のアメリカへ明まだ忍ぶで娘二ヶ月の妻の、果敢取な船の旅……大阪府立貿易事故に驚きの余り流産し、自易館では最近こうした花やかな分の顔に残つた生々しい大きな註文がめつつきり多くなつたので三筋の傷痕は人に暗い陰惨な感その靴注文は大重だ、これらの一生をへ外交商賣には大打撃で商品註文にはいひ合せたやうに一生を通じ収入に二割位の減少「日本品は廉いばかりでない品を來すと共に、ひいては出世の上激減したので、婦よりには商賣賣がうんと向上した、當店では妨げともなり、精神的な苦しみが大事だととし子を連れ戻つて

珍訴! 向ふ底は出世の妨げ
傷ついた會社員
慰藉料請求の訴望

疵の惱みは結婚適期女性
占ちやない
は金銭に見積り得ないが、五千
圓とし収入減少は三千九百余圓

百万圓で

五瓦のラヂウム購入
グラムが二十万圓もするラヂ
ムが突然一度に五グラムも日
へ持つて來られることとなり
界的なわが醫學界、物理學界、
ますく光輝を加へるものと
て斯界を驚喜せしめてゐる。
はさきごろ二十万圓で組織

重寶料はたつた五圓、しか
も最初の月は五十圓、殘額は三
圓の月賦といふきはどいとい
ろで縛れはやつとをさまつた

八十年前の家出人

ナンセンス 捜査願

「天保元年生れ河合松太郎は
去安政二年十二月十日家出す
索引なきやあらば返一

八十年前の家出人

ナンセンズ捜査願

「天保元年生れ河合松太郎は去安政二年十二月十日家出すといふなきやば返」
これら家出人手配がこの程京橋署から市内各署に打電された。捜査願を出す方も受付ける方もこれは少しノキ過ぎるとの評判だが……この八十年前の捜査

Elixir Nogueira
grande depurativo
de sangue

◎萬國藥店に有り

梅毒妙藥

京橋區の河合此七さん、家出しに松太郎は同人の伯父に當るといふが人相はもとより原因も家出當時の居住所も判らない、家語り傳へに安政二年十二月十日新潟縣から失蹤したらしいといふのだ、面倒臭いからそのまゝにして置いたら京橋區役所の

S. Paulo
電話番號が變りました
電話 二二八四三〇

農業に經驗ある
強健なる
募集

募集

女中さん二名

(年齢を問はず)

中央メルカード前
パロン・ツプラ街二七

ジョアキン・フリーオ
(一九一九年創立)

立資本金一、七〇〇コン
排委託販賣、前貸、良價取引
送付により精選珈琲大量受

本年度第一期

の衣空
機服前
を類の
逸の大
せ御割
ず用意
御買は
上此賣

御料理
富美の家
聖市
タバチンゲラ街一二番

ギード・シオリ
御婦人帽並御子
用帽子御調製

どんな帽子でも御修繕に應じます、弊所製ものは日本人各御家で御愛用になります

女給さん

数名至急入用、御希望の
 方は御手紙下さい、早速
 お迎ひに参ります
料亭、うめの家
 F. Conde do Pinhal, 108
 S. Paulo
 電話番号が變りました
 電話 二二八四三〇

農業に經驗ある
強健なる
募集

ジョアキン・フリーオ
(一九一九年創立)

立資本金一、七〇〇コン
排委託販賣、前貸、良價取引
送付により精選珈琲大量受

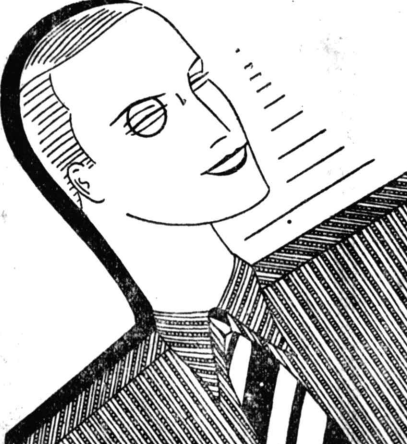
本年度第一期

の衣空
機服前
を類の
逸の大
せ御割
ず用意
御買は
上此賣

CASA MICHEL



カーザミッシェル
大賣出し
各品特價提供、今が好機
時計類その他指環
寶石類の御買上げは：
御買上げ百ミル毎に來る十月四日抽籤のバ
ウリスタ・ロテリヤ札フラツソン（十分ノ
一）一枚景品として提供



Casa Alemã
Schädlich, Obert & Cia. — R. Direita. 16-18

春の御装ひはカーザ・アレマン
で
カミーザ、ピヂヤマ、グラワタ
レンソ等々々
全て大衆皆様の御手頃な御値段
であります
デレイタ街一六〇一八

A MAIOR SEÇÃO DE CAMIARIA

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Nipponico de maior circulação no Brasil

Anno XX

São Paulo - Quarta-feira, 19 de Setembro de 1934

Num. 902

Noticias e telegrammas do Nippon

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN e dos jornaes)

NIPPAK SHIMBUN

Director-Proprietario:
SACK MIURA

Redacção, Administração e Officinas
Rua da Liberdade, 144-A e 146
Caixa Postal, 375
Telephone 2-3926
Indereço Telephonico: "Nippak"
SÃO PAULO - Brasil

ASSIGNATURAS
Para o Brasil

Por anno	30\$000
Por semestre	16\$000
Numero avulso	\$500

Para o Exterior

Por anno	60\$000
----------	---------

Anuncios
Temos á disposição dos interessados
uma tabella completa de preços para
anuncios nesta folha. Telephone 2-3926

Cresce a importação de algodão indiano pelo Nippon

A Federação Nipponica de Tecidos de Algodão importou, até 15 de julho, 1.520.299 fardos de algodão indiano, quantia essa que ultrapassa ao previsto no tratado commercial Indo-Nipponico.

Tal pacto commercial prevê que o Nippon póde exportar tecidos de algodão no maximo quatrocentos milhões de jardas, devendo os industriaes nipponicos importar da India cerca de um milhão e quinhentos mil fardos de algodão por anno.

Assim, pelo que se vê, este anno a importação será de um milhão e oitocentos mil fardos.

Grêve dos operarios de transportes

O prefeito de policia da capital nipponica convidou as autoridades municipais e os operarios dos Serviços de transportes em geral, que se acham em grêve, a submetterem o actual conflicto em que são partes, a um comite de arbitramento.

Em caso de recusa, parece certo que será imposto o arbitramento obrigatorio.

Embora o movimento grevista ja se estenda por varios dias, a circulação quasi normal dos bondes e auto omnibus, em Tokio, tem sido assegurada por voluntarios.

Expansão nipponica

Não é de hoje que o Imperio do Sol Nascente abriu as suas portas para as civilizações do Occidente. Já bem longe vae essa data. Foi em 1542, quando um barco portuguez arribou ás suas costas, e, após refazer-se para uma longa travessia de retorno aos mares do Atlantico, levou ao mundo daquella época a noticia de que um outro povo civilizado se descobrira, alem das Indias, alem da China, no Extremo Oriente.

E o Imperio do Extremo Oriente abriu as suas fronteiras para os homens occidentaes, em 1542, quarenta e dois annos após a chegada de Pedro Alvarez Cabral ao Brasil.

Ao cabo de alguns annos, todavia, viu-se o governo daquellas ilhas de alem Indias a frente das primeiras questões internacionaes. Sacerdotes budhistas e os missionarios do Occidente iniciavam attrictos, porquanto os que para lá iam de Portugal e de Hespanha, tencionavam ensinar e educar um povo millenario! E, para manter a ordem e o respeito, além do socorro do seu povo, o governo nipponico fechou os seus portos aos homens estrangeiros.

Em 1853, sob pena de bombardeio, uma esquadra norte-americana exigiu a abertura dos portos do paiz ao commercio do Occidente.

E as relações voltaram ao paiz que os portuguezes pensaram ter descoberto em 1542.

Grandes negociações foram desde logo entabuladas. Aproveitando o que se fizera no Occidente, o Imperio nipponico desde então passou a aperfeiçoar o que recebia de fóra, tornando o paiz de essencialmente agricola, em profundamente industrial.

Com o crescimento quasi

Homenagens prestadas ao embaixador K. Hayashi

A visita official ao presidente brasileiro e o jantar offerecido pelo chanceller Macedo Soares

Como temos noticiado, o sr. Kyujiro Hayashi, embaixador nipponico, que durante largo tempo exerceu as funções de embaixador junto ao governo brasileiro, deixou aquella alta investidura para o qual foi nomeado pelo governo de Tokio, o sr. S. Wada, que assumirá tão logo possa transportar-se para o Brasil, o que se dará com a chegada do sr. Hayashi á capital nipponica.

Como embaixador interino, foi nomeado o sr. Iwataro Uchiyama, consul geral nesta capital.

Nas vespas do embarque do sr. Hayashi para New York, de onde se transportará ao seu paiz, esteve a. ex. em visita ao presidente da Republica do Brasil, a fim de apresentar as suas despedidas.

Achando-se presente o ministro das Relações Exteriores do Brasil, sr. Macedo Soares, o sr. Getulio Vargas fez entrega ao diplomata nipponico das insignias da gran cruz da Ordem do Cruzeiro do Sul, com a qual foi agraciado pelo governo brasileiro.

Ao jantar que se realizou no Itamaraty, no dia 11 do corrente, offerecido pelo sr. Mac do Soares, ao illustre diplomata, compareceram as mais altas personalidades do governo brasileiro e da embaixada do Nippon, além dos ministros do Brasil.

Ao champagne o chanceller brasileiro saudou o embaixador Hayashi, usando, mais ou menos, os seguintes termos:

"O Brasil tem acompanhado com admiração o ingente esforço dos nipponicos e o maravilhoso engenho com que souberam collocar o seu paiz na primeira plana entre as nações, adaptando-a ao rythmo do occidente, sem nada perder de sua gloriosa civilização propria e cultuando, ao contrario, cada vez mais as virtudes ancestraes,

Apesar da distancia que separa os nossos paizes, as mais cordiaes e crescentes relações têm se mantido entre elles graças á orientação de seus governos e á acção dos embaixadores do Nippon que aqui têm representado com tanto brilho as veneraveis tradições de seu povo, modelo de patriotismo, cavalheirismo e cortezia. Esse trabalho de aproximação entre as duas nações que tão fecundus frutos já constituiu é uma construção solida, mais do que a sabedoria dos seus estadistas deve elle o vigor á natural e espontanea sympathia entre brasileiros e nipponicos.

Esperamos que os laços dessa amizade leal e sincera se estreitem cada vez mais e que ao calor das grandes forças espirituas se desenvolvam as permutas necessarias ao bem estar de um e outro povo. O Nippon encontrará no Brasil materias primas indispensaveis ao seu importante parque industrial e poderá collocar nos nossos mercados consumidores muitos dos artigos elaborados em suas officinas, como aliás já o vem fazendo.

Respondendo, accentuou o sr. Hayashi

"Durante minha permanencia de dois annos e um mez neste paiz, como chefe da missão diplomatica do Nippon, recebi provas de cortezia e de cooperação em toda parte, não só dos meus amigos do mundo official, como também de particulares. Mercê das facilidades assim concedidas, não obstante a brevidade de minha estada, pude visitar S. Paulo, Minas Geraes e os Estados do norte, inclusive os que ficam ao longo do rio Amazonas, e admirar os formidaveis recursos naturais do paiz e ainda as mais maravilhosas realizações humanas,

Foi meu principal e constante objectivo fortalecer a tradicional amizade que une o Brasil e o Nippon augmentando o intercambio economico entre as duas nações. E agora é um prazer para mim saber que v. exa. tem o mesmo ponto de vista de que o Nippon encontra no Brasil materias primas indispensaveis ao seu importante parque industrial e poderá collocar nos mercados brasileiros os artigos de sua manufactura.

Foi com legitima satisfação que observei o lento, mas seguro, desenvolvimento das relações commerciaes entre os dois povos, E tenho a profunda convicção de que o bom trabalho assim iniciado, com feliz coincidência de pontos de vista dos dois governos, será levado por diante ininterruptamente, para mutuo beneficio. Levo do Brasil as mais agradaveis impressões de sua maravilhosa belleza natural, de seu ameno clima, de seu povo hospitaleiro e sobretudo da amizade e cooperação de numerosos brasileiros dentro das camadas officiaes, como das particulares. E, de regresso ao Nippon, posso assegurar a v. exa., que continuarei envidando meus melhores esforços para incrementar a amizade brasileiro-nipponica."

Ao findar a sua brilhante oração, o embaixador nipponico saudou o presidente Getulio Vargas, erguendo, também, um brinde ao povo brasileiro.

A industria cinematographica nipponica

Por W. W. Nohara

Segundo vimos em nosso ultimo numero, os studios nipponicos no espaço curissimo de um mez iniciam e terminam a filmagem da maioria de suas obras para o ecran.

Afecta essa rapidez assombro a a qualidade artistica do film? Sim e não. As pelliculas modernas que escolhem os seus argumentos e personagens entre as formosas jovens empregadas nos grandes departamentos, os romanicos estudantes das universidades e as classes superiores que imitam as modas e maneiras do Occidente, são deploraveis. São tão más que, geralmente, não chegam nem a comicas.

Os films historicos são de uma belleza perfeita. São tão bellos que os lembram as antigas pinturas do classico theatro Kabuki. Estas pelliculas são as unicas descendentes legitimas do antigo theatro Kabuki que ainda logram conservar a sua milenaria tradição.

O scenario Kabuki sempre offereceu ao publico obras que eram mais bem para os olhos que para o ouvido. Actualmente chegou o rythmo do seu esylo de

coralivo até o joven descendente da musa Thalia: o cinema.

A evolução do Nippon frequentemente é mal comprehendida no Exterior. Contra o que geralmente se pensa os nipponicos não são escravos da mechanização occidental. Estão lutando para adaptar a civilização do Occidente ao seu proprio caracter e as suas necessidades. O cinema historico nipponico é uma prova evidente do exilo que vem se obtendo nesta lucha. Os actores que trabalham em pelliculas desse genero, exercitam-se na severa escola de Kabuki. Chodjiro Hayashi, cujos nobres papeis constituem ainda a delicia dos espectadores europeus, é um discipulo do octogenario Gondjiro, cujas interpretações, sem rival, de amantes jovens e fortes, chegaram a entusiasmar tres gerações. Chodjiro, que é um dos grandes artistas do passado, levou a tradição dos seculos até á scena muda.

Por razões de ordem economica, o director — cujas despesas de studio e salarios sahem do seu ordenado — dispõe tantas scenas quantas senjam possiveis em campo aberto e economiza, até onde é possivel, os scenarios. Como sóe acontecer na arte, a pobreza se converte em uma fonte bemdita.

Nada ha de falso nos films historicos do Nippon. Formosas mulheres e sympathicos varões, bons dançarinos, o pittoresco panorama, o sol, que está tão intimamente ligado a cada phrase da vida nipponica, o encanto de um passado historico unico, tudo é combinado para formar uma obra de arte, apesar da rapidez, do limitado tempo e da pobreza dos meios financeiros.

Feliz e evidente prova de que a verdadeira tradição é uma força irresistivel.

Pensão Japoneza

J. IOCHIO
Avenida João Guilhermino, 2
S. José dos Campos — E.F.C.B.

1ダカサ 日本地
ノン 切客入振
ジョ 町客入振
ボ 町客入振
シ 町客入振
ヤ 町客入振
メ 町客入振
ミ 町客入振
フ 町客入振
レ 町客入振
ハ 町客入振
ニ 町客入振
ホ 町客入振
ヘ 町客入振
ニ 町客入振
ホ 町客入振
ヘ 町客入振
ニ 町客入振
ホ 町客入振
ヘ 町客入振

Os principes Kaya regressaram ao Nippon

Informam-nos de Yokohama que os principes Kaya, que durante quasi seis mezes estiveram em viagem de recreio pelos paizes da Europa e Norte-America, regressaram áquelle porto no dia 18 deste mez, sendo recebidos pela familia imperial e autoridades officiaes e militares do Imperio Nipponico.

Ss. Aa. mostraram-se satisfeitas com a longa viagem, na qual tiveram occasião de conhecer as civilizações europeas.

AO POVO

Amanhã, 20 de Setembro, realiza-se, em todo o Estado, o Recenseamento Demographic, Escolar e Agricola Zootecnico de S. Paulo.

A ninguém escapa a utilidade, a expressão e a urgencia dessa obra.

Todos os cidadãos, sejam paulistas, filhos de outros Estados do Brasil ou estrangeiros aqui residentes, tem o dever indeclinavel de colaborar nessa operação que a todos interessa.

O Recenseamento é um trabalho de verdadeiro patriotismo.

Capacidade de leitura no Brasil

Alves de Azevedo

A leitura entre adolescentes

Finalmente, custando nunca menos de tres mil réis um volumezinho romantico, nacional ou estrangeiro, lá é o livro posto á venda aqui e ali, nas principaes livrarias, nas grandes cidades do paiz.

A pouca diffusão é a segunda parte da grande questão.

Sem muita propaganda, sem diffusão, o livro lançado no mercado trazendo um rotulo phantastico da edição tirada, fica por ali, nos grandes centros. Raramente elle chega ás cidades do interior, onde fica á mostra nas vitrines de um ou dois pequenos livrellos, sem nenhuma publicidade, em consignaço, para de ali ha dias voltar, como foi, com a chamada de "esta obra não agradou ao mercado". E' bôa, mas é verdade. O livro não agradou, mas também ninguém ninguém soube que o elle esteve a mojar, a queimar, a estragar na vitrine do livrello!

Possuidor dos volumes devolvidos, o livreiro-editor os remette para outra localidade. E assim, nesse vae e vem, é que se faz a diffusão das obras em vernaculo! De tres ou quatro milheiros da tiragem, somente dois ou tres são vendidos num paiz onde ha milhões de alphabetizados. O restante apodrece, desfolha e some nas viagens. Não ha leitores para elles. Dos poucos vendidos, esses são negociados em alfarrabios, passando de mãos em mãos. Annos depois, ainda a pequena edição é vista em qualquer livraria. Diz ou quinze mil pessoas passaram sobre elles os seus dedos, mas apenas cinco mil deram-se ao trabalho de folhear os! E porque?

Responde-nos a falta de habito pela leitura.

Num paiz como o Brasil, onde o numero de alphabetizados póde ser considerado, senão respeitavel, pelo menos relativo, a leitura como habito ou costume é fraquissima. Apenas trinta por cento dos alphabetizados lêem. Os demais dedicam-se ás ligeiras leituras de determinadas secções de jornaes e muitos na commodidade de desaproprer o que aprenderam nos bancos escolares. Lavradores e operarios, são duas classes sociaes que perfazem uma grande totalidade dos homens que não lêem senão pregões de bolsas, cotações cambiaes e noticiarios esportivos e policiaes. Obras recreativas e educativas (não falemos em obras de flego) são avis raras para elles. Conhecem-nas de nome, por alto, mas ignoram o seu conteúdo valoroso e educativo. Não é preciso irmos muito longe para assistirmos a esses factos. Nas grandes capitales braiseiras temol-os a todos os instantes aos nossos olhos. Basta-nos verificar as pessoas que frequentam os livrellos e as que têm por habito a leitura em nossas bibliotecas publicas. Quem as frequenta? Estudantes, na maioria, depois, intellectuaes, medicos, advogados, individuos, enfim, que, mais por obrigação que por prazer, são obrigados a viver ao par do que os outros escrevem. E esses, esses que a frequentam, são muitos? Poucos, pouquissimos; a maioria, a massa mais forte, é a social: lavradores, operarios e commerciaes, que, apesar de alphabetizados, não lêem, allegando os mais diversos motivos: falta de tempo, dinheiro e costume. Muitos ha, entre elles, muitos chefes de casas commerciaes, capitalistas, homens ricos em tempo de dinheiro, que não lêem, dizendo que nunca sentiram a falta do livro. Conheço muitos destes individuos e com elles já tenho palestrado sobre este assumpto, mas a resposta é sempre a mesma: não lhes faz nunca lhes fez falta a leitura.

Sabem elles que são ricos em dinheiro, fortes em capacidades praticas, mas se não recordam que são pobres em illustração e mediocres em espirito.

A leitura entre adolescentes no Brasil é praticada pelas pessoas, de ambos os sexos, de quinze a trinta annos de idade comprehendendo-se nela as obras nacionaes e estrangeiras, nas suas mais multiphas formas, abrangendo os livros recreativos, educativos e as obras de folêgo.

Bem fraca, quasi nulla é a capacidade de leitura entre os jovens brasileiros alphabetizados.

Vejam as causas:

O alto preço dos folios em vernaculo, a pouca diffusão e o quasi nullo habito de leitura são os tres factores da questão.

Analyzemos aqui a primeira parte, tomando o facto desde o trabalho intellectual do autor ou do traductor até a venda de volumes nas montras dos livrellos.

Bem pouco preço, muitas vezes explorado pelos editores, o autor ou traductor nacional não póde nunca viver da exclusividade do seu trabalho, obrigando-se a recorrer aos trabalhos de imprensa ou outros quaesquer, a fim de manter a sua existencia num ponto em que lhe possa dar o bastante para o seu sustento, porquanto o trabalho intellectual não tem um valor reconhecido pelos fazedores de livros. Não raro podemos ir encontrar autores e traductores nacionaes metidos no lufa-lufa das nossas redacções de jornaes, ou então, na pasmaceira das repartições publicas, donde lhe advem o seu pão de cada dia. Desta forma, elle, o intellectual, que compõe ou traduz um livro original, não póde cuidar unicamente da sua arte, porque não lhe sobra tempo para tanto.

Por sua vez, o livreiro editor tem as suas razões. O machinario, o material typographico, tintas, papeis, são objectos estrangeiros, custosos, que são passados pelas alfandegas nacionaes após fortes e pesadas tarifas. Depois, são os impostos disto e daquillo. Operarios, alugueis, mil outras despesas a pesar na balança. Por fim, os lucros convidativos. E o que se obtém? Alguns poucos de milhares de volumes a custar um amontoado de moedas cada um. E a publicidade, a propaganda, a diffusão, os despachos as commissões, as consignações, tudo, quasi tudo por fazer!